

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270200850		
法人名	社会福祉法人 一葉会		
事業所名	グループホームはるなの家		
所在地	青森県弘前市大字福村字新館添50番地2		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成26年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年6月より、低張性弱アルカリ性高温泉での入浴となり、利用者から好評を得ている。グループホーム内だけの活動に留まらず、併設のデイサービスセンターや隣接の軽費老人ホームと合同の行事・余暇活動を積極的に行っている。グループホーム退所後も同敷地内にある特別養護老人ホーム・ショートステイへの紹介・相談を行うことで、施設の特性を活かし、総合的に対応することができる。また、法人全事業所が弘前ねぶた祭りに毎年参加し、郷土の祭り継承や貢献・地域活性化を図り、福祉の発展を願いながら、地域の方々と一緒に、法人役職員・取引業者・利用者とその家族が一つとなり、ねぶた運行に力を入れている。その他、地域協力員と地域消防団の協力を得ながら、地域ぐるみでの夜間防災訓練を年2回実施し、大規模な消火訓練と避難訓練を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人では特別養護老人ホームの設立をきっかけに多数の福祉関連事業を運営し、保育園から高齢者まで、地域住民が地域で安心して暮らせる環境づくりを行っており、地域の一員として、長期にわたり、地域住民との関わりを持ち、地域になくてはならない存在になっている。
ホームも地域密着型サービスの役割を十分に理解しており、法人理念の他に「地域と共に明るく・楽しく・一緒に」を合言葉に、利用者が安心・安全・健やかな暮らしができるよう、日々の支援に取り組んでいる。緊急災害時に備え、月1回の避難訓練、また、地域住民に協力員を委嘱して夜間の災害時に備え、年2回、地域協力員を交えた避難訓練を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の他に「地域と共に明るく楽しく一緒に」という事業所独自の理念を掲げている。事業所独自の理念は、地域交流や地域に根付いた生活が送れるようにとの思いが含まれている。	法人の経営理念の他、ホーム独自の理念を作成し、ホーム内に掲示して周知・共有化を図っている。また、ミーティングでは、職員一人ひとりが独自理念を根幹とした一日の目標を立て、利用者が地域と共に安心して過ごせるように、日々の支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人行事や運営推進会議等で、地域の催し物等の情報収集を行い、お祭りや敬老会へ参加することで、地域の方々と顔見知りになり、交流が行えるよう努めている。	法人全体の行事に地域住民の参加を呼びかけ、地域の行事にも積極的に参加している。また、法人で毎年、弘前ねぶた祭りでねぶた運行をしており、地域住民、保育園児、利用者と一緒に参加する等、常日頃から地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	町内役員や民生委員、老人クラブ会長等、運営推進会議の中で学習会を行い、認知症高齢者に対する支援や感染予防、虐待防止について学ぶ機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で参加メンバーから意見を引き出し、その意見を職員間で話し合い、検討しながら、利用者のサービス向上に役立てられるよう努めている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。会議では、外部評価の結果及び目標達成計画、日々の取り組みや入居状況及びケア状況等の報告を行い、参加者から意見を引き出し、サービスの質の確保、向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスの課題解決や質の向上に向けて、電話での相談や担当者に直接話を聞きに行く他、運営推進会議に参加してもらい、意見交換や協力関係を築くよう努めている。	運営推進会議には行政職員、地域包括支援センターの職員が参加している。ホームの実態等を理解してもらうために、自己評価及び外部評価の結果、目標達成計画等を提出し、また、地域住民の抱える問題点を把握し、報告している。日頃から、問題の早期解決のために、行政との協力関係を築くよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアル整備と、研修会で学習しているが、身体拘束は行っていない。また、身体拘束は行わずにケアするという方針で、職員全体で取り組みを行っている。	身体拘束についてマニュアルを作成しており、拘束の内容や弊害について定期的に学習会を開催し、拘束は行わないという姿勢で日々のケアを行っている。やむを得ず行う場合には家族に説明し、同意を得る体制がある他、無断外出があった場合には、日頃から地域との信頼関係を構築していることから、協力が得られる環境にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修会等に参加することで虐待防止を理解し、職員間で話し合いながら、日々、虐待が見過ごされないよう注意を払っている。身体拘束は勿論、言葉の虐待にも注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。また、成年後見制度を活用している利用者があり、後見人の方と関わりを持ちながら、いろいろと教えていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に重要事項説明書にて家族や利用者等に説明を行い、理解や納得をいただけるよう努めている。また、退所時も、退所に向けて施設と家族の話し合い、説明を事前に行うことで理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に重要事項説明書にて説明し、施設内にも掲示している。利用者が意見や不満を常に言えるようなコミュニケーションを大切にし、意見箱を設置している他、相談担当職員名の掲示と苦情処理委員会を設けている。	利用者及び家族が、普段から意見や要望を言い出しやすい雰囲気を作り、うまく表せない利用者には、日頃の表情や態度で察している他、玄関先には意見箱を設置して、意見や要望を出せる環境を作っている。また、出された意見等は苦情処理委員会で十分に話し合い、より良い利用者への支援、ホームの運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議等で、職員の意見を聞く機会があり、出された意見が反映される仕組みを整えている。	会議等、職員からの報告や意見を聞く機会を設けている他、日常的にも職員が自発的に意見を言える環境づくりを行っている。また、職員から意見が出された場合にはより良いサービス提供、ホーム運営のために反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	保有資格を活かした職員配置や役割を辞令し、職員の日々の努力や勤務状況等を把握している。また、資格取得の推進に対する取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全施設の職員を対象とした研修会を年6回実施している他、年間研修計画を作成し、勤務年数・保有資格等を考慮した研修会に参加させている。研修参加後は、報告書の提出や伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会に参加することで、交流や情報交換を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望者と面談し、利用者の要望に沿ったサービス提供の提案や、必要なケアの見極めを行い、安心して利用できるよう、また、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談し、利用者の要望と家族の要望を組み合わせ、柔軟且つ家族にも安心して施設サービスを受け入れてもらえるよう、説明や理解を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時点で何が必要かを見極めし、柔軟に対応できるよう努めている。また、すぐに対応できない場合は、他のサービス利用も含めた対応や、法人施設で解決や対応ができないかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の利用者の喜怒哀楽を理解・尊重し、料理や裁縫、園芸、日常生活で行う些細な作業等、家事の知恵や今までの経験を教えてもらいながら、一緒にいき、日々、接することで、家族のように心地良い関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来園時や電話での報告等で、家族との情報交換を密にし、家族の思いや職員の気づきを共有することで、利用者を共に支える関係であるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまで関わってきた人や場所に対し、入所前と変わらず、同じように継続した関係やつきあいができるよう努めている。	入居時及びその都度、利用者や家族から馴染みの人や場所等の聞き取りを行い、把握するように努めている。日頃から、利用者の外出等の希望を把握し、個別に計画を立てて外出する支援を行っている他、来訪や電話等での交流についてはできる限り支援し、利用者がこれまで大切にしてきた関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤独や引きこもりがないよう、共同作業や共有時間を設けることで、交流が図れる場を与え、関わり合い、支え合える関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、電話や来園にて相談を受け、継続的な関わりを大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望、情報を個別に把握するだけでなく、家族や関係者からも情報収集し、本人本位であるよう努めている。	利用者に対して担当職員を配置し、日頃の会話や表情や行動等で、利用者の思いや希望、意向の把握に努めている。把握した情報や意見は、全職員で共有化を図り、必要に応じて家族からも情報収集する等、できる限り、意向に沿った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や環境、これまでのサービス利用の経緯等、本人や家族から情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の過ごし方や心身状態、利用者のわかる事、できる事を把握し、見極めた上で支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、利用者と家族の意見・要望を聞き、全職員の意見と気づきを集約・反映させ、作成している。	日々の会話等から利用者の意向を把握し、家族には面会時等に意見を確認している他、ミーティングで職員の気づきや意見等を踏まえて介護計画を作成しており、定期的に見直しを行っている。また、利用者の状態変化や家族の意見により、随時、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日常生活状況や身体状態、職員の気づきや援助内容を個別に記録している。記録の内容は全職員が共有し、介護計画の見直しや日々のケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス提供だけではなく、同敷地内にある法人施設やサービスを活用し、柔軟な対応ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用できそうな地域資源を職員が情報収集し、活用できるかの検討を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の説明時に、利用者や家族が希望する医療機関の確認を行い、希望の医療機関に受診していただいている。また、協力医療機関の定期的な回診もあり、体調不良や心配のある時は、いつでも気軽に受診・相談できる体制が整っている。	入居時に利用者や家族から受診状況を確認し、希望するかかりつけ医や専門医等を受診できるよう、家族対応を基本として行っている。受診結果は家族とホームが情報の共有化を図り、軽微な変化があった場合は、協力医の回診時に相談、診察ができるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護資格のある職員を配置している他、同敷地内施設の看護職員と連携を図り、24時間いつでも対応・相談できる体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設からの情報提供を行い、職員がお見舞いに行き、治療経過を直接聞いたり、家族からも情報収集している。また、退院時に病院から情報を提供していただく等、施設・家族・病院が一体化し、情報交換できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期を見極め、対応について、その都度、本人・家族・医師と相談や話し合いの場を設けている。	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームの方針として、看取りの支援を行わないことを重要事項説明書で説明している。日常的な健康管理については、利用者や家族等、医療機関との話し合いを行い、意思統一を図っている。また、重度化した場合には同法人施設等と連携を図り、対応するように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会や看護職員から、緊急時の対応について学ぶ機会や訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練や、年2回、地域協力員・消防団が参加する夜間想定した避難訓練を実施している。ホットラインによる職員の連絡網も整備し、定期的に訓練を行っている。	火災等非常災害時に備え、月1回、避難訓練を行っている他、夜間を想定した避難訓練を法人全体で年2回、実施しており、夜間を想定した訓練には、法人で委嘱している地域の協力員も参加している。また、消防設備を定期的に点検している他、非常時に備え、食料や飲料水、物品等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の声かけや対応、個人情報の取り扱い等、常に確認や注意を払い、人格や誇りの尊重、プライバシーの保護に努めている。	職員は利用者に対し、年長者として常識的かつ適切な声かけに努め、日々のコミュニケーションを図っている。失禁時は羞恥心に十分に配慮して、周囲に気づかれぬように誘導・対応をしている。また、利用者の個人情報ファイルは戸棚に保管し、守秘義務や個人情報の取り扱い等に十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日々の関わり合いから、本人の思いや希望を自己表現できるように働きかけ、言葉で表現できない方は表情や状況から汲み取り、自己決定に導く援助に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活ペースを把握した上で、生活リズム・バランスを取りながら、その日の希望や状況、身体・精神状態に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいお洒落ができるよう、洋服のコーディネートや小物使いの助言と支援を行い、衣類や整容の乱れにはさりげなくサポートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施し、バイキングや希望食を取り入れ、個々の嗜好品や利用者の人気メニューを把握し、栄養士に伝えている。肉や乳製品等、苦手や病的に摂取できないものは代替えにて提供し、利用者の状況により、準備や片付けを一緒に行っている。	献立は嗜好調査を踏まえて栄養士が作成し、栄養バランスがとれた食事を提供しており、苦手な食材がある場合は別な物を準備する等、柔軟に対応している。職員は、利用者との会話を楽しみながら、さりげなく食べこぼし等のサポートを行い、利用者の状況、意思に応じて、後片付け等を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に管理された食事の栄養バランスと、水分補給の確保ができています。食事の際は見守りし、利用者の食事の摂取量の把握や、足りない部分は間食で補う援助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時、口腔内の洗浄やうがい・義歯の手入れを、声かけや行為の見守り、介助により実施している。うがい薬や、職員が管理して義歯洗浄剤で夜間洗浄を行うことで、口腔内の清潔保持や口腔ケアができています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄パターンを記録・把握し、トイレ誘導や排泄介助を行っている。こまめなトイレ誘導を行い、汚染確認することで、排泄の失敗の軽減や衛生保持ができています。	利用者の排泄パターンを記録し、パターンに応じてトイレ誘導を行い、オムツ等に頼らずに自立に向けた支援を行っている。また、失禁した場合も、利用者の羞恥心に配慮し、他の利用者には気づかれないように誘導する等、プライバシーに十分に配慮した対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	来園時や電話での報告等で、家族との情報交換を密にし、家族の思いや職員の気づきを共有することで、利用者を共に支える関係であるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々の健康状態を把握し、体調が悪い時以外は入浴の制限をしていない。入浴時間や好みの温度・一緒に入る利用者同士の相性等を考慮している。水虫や皮膚疾患のある利用者には、毎日、足浴やシャワー浴を実施している。	利用者の好みや入浴習慣を把握し、つかりすぎ等にも注意しながら、好みに合わせた入浴の支援を行っている。信頼関係ができるまでは利用者同士の入浴を控える等、利用者の羞恥心にも配慮をしている。また、入浴を拒否される利用者には無理に勧めず、声かけや時間帯、入浴日を変え、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、昼寝と休息の確保や、日中の活動量を増やすことで、夜間の安眠を促す援助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の管理を行い、薬の内容等を把握している。服薬介助の際は手渡しし、飲み込みの確認も行い、薬の変更・状態変化時は記録して、医師や家族に報告や相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の人生や生活の中で、得意としてきた事を活かし、役割を持ってもらったり、教えてもらいながら一緒に作業することで、自信や楽しみ、生きがいにつなげている。また、気晴らしになるような外出やコミュニケーションを個別に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	野外に出る機会を多く設け、行事計画に関係なく行っている。季節に応じた名所のドライブや、地域のスーパーへの買い物、行楽地への遠足、食べたいものを外食する個別ドライブ等を毎月計画し、実施している。	利用者の楽しみや気分転換につながるよう、季節のイベントや名所等へドライブに出かけたり、屋外でお茶をする等、外出する機会を設けている。また、日々の支援の中で利用者の思いや希望を聞きながら、身体状況に合わせて移動方法等の配慮を行い、個別に外出する機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族管理・施設管理の他、自己管理できる方はお小遣い程度の所持金を管理しており、外出の際は自分で欲しい物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話を設置しており、いつでも利用できるようになっている。電話をかける一連の行為ができない方に関しては、職員がサポートしたり、手紙の代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者にとって不快な音や光がなく、季節感を取り入れた飾りや花を掛け、心地良く過ごせるように工夫している。	ホーム内は日差しや照明で適切な明るさを保ち、共有スペースには家庭的な調度品を準備して、配置は利用者同士がコミュニケーションをとりやすいようにしている。また、ホーム内には季節が感じられる手作りの作品や季節の花を飾っており、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは交流の場となるよう、フリースペースや談話室を設け、ソファやテレビを設置し、自由に活用できるように整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は個室になっており、ベッド・応接セット・ダンス・棚・洗面所を完備している。入所前から自宅で使い慣れた愛着のある家具・家電等は、そのまま持ち込んで使用してもらい、その人らしい居室空間を作り、生活していただけるようにしている。	家族等に積極的に働きかけて、入居する前から愛用している、使い慣れた家具や寝具、また、趣味の書籍等を持ち込んでいただいている。また、持ち込みの少ない利用者には、本人の意見を聞きながら、入居してから作った作品を掲示したり、居心地良く過ごせる空間づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には目印となる表札があり、食堂やお風呂の共用の場にも暖簾を下げ、混乱や場所の確認となる工夫を行っている。表札や暖簾は職員が手作りし、家庭的な温かい雰囲気環境となっている。		